

熱帯地域原産の植物

熱帯とは、地理学上は、赤道を中心として、南北回帰線（南北緯度 23°27'）の間の地域をさす。気象学上は、年平均気温 20℃ 以上、最寒月平均気温が 18℃ 以上の地域を示す。

陸上植物(コケ植物と維管束植物)の種は 30 万種ほどだが、そのうち 3 分の 2 ほどが熱帯に分布していると言われており、まさに熱帯は植物の宝庫といえる。

ブーゲンビレア、ハイビスカス、ポインセチアなどは、温帯圏では植物園の温室で栽培され、私たちの身近な植物となっている。

熱帯地域原産の植物を取り上げ園芸分類別に熱帯植物・庭木花木・球根草花の 3 分類にして迎ってみました。

※園芸分類：熱帯植物・庭木花木・球根草花

F	リーフ NO.	熱帯地域原産の植物名・ 園芸分類	リーフ 数	F	リーフ No.	熱帯地域原産の植物名・ 園芸分類	リーフ 数
1	1	タイトル	1	2	庭木・花木 寄生植物		(10)
	熱帯植物 観葉植物 多肉植物 果樹		(24)		26	オウゴチョウ	1
	2-3	アラマンダ	2		27-28	カエンボク	2
	4	アンズリウム	1		29	エリスリナ	1
	5-6	プルメリア	2		30	ユソウボク	1
	7	ストレリチア	1	3	31-32	ハウオウボク	2
	8	コンロンカ	1		33	ラフレシア	1
	9-10	コーヒーノキ	2		34-35	ゴールデン・シャワー	2
	11	サンタンカ	1		球根 草花 香料植物 水生植物		(13)
	12	ソケイ(ジャスミンの仲間)	1		36	アマリリス	1
	13	トケイソウの仲間	1		37	イランイランノキ	1
	14-15	ハイビスカスの仲間	2		38	グラジオラス(夏咲き)	1
	16	ゴールデンキャンドル	1		39	グロリオサ	1
2	17-18	ブーゲンビレア	2	40	ニチニチソウ	1	
	19-20	プロテア	2	41-42	熱帯スイレン	2	
	21-22	ヘルコニア	2	43-44	ハス	2	
	23-24	バオバブ	2	45-46	ハマオモト	2	
	25	アロエ	1	47-48	ポインセチア	2	
					合 計		48

アラマンダ 学名: *Allamanda* 和名: アリアケカズラ
 科名 / 属名: キョウチクトウ科 / アリアケカズラ属 (アラマンダ属)
 園芸分類: 熱帯植物 形態: つる植物 原産地: 熱帯アメリカ
 特性・用途: つる性、開花期が長い、常緑性

アラマンダは丈夫な性質で、温度さえあれば一年中開花するので、熱帯地域では広く栽培され親しまれている。ブラジル原産のアリアケカズラ (*Allamanda cathartica*) は、生育環境によって樹形に変化が生じ、日本ではだいたいつる性になるが、熱帯の強光線の下で育つとコンパクトなブッシュ状になる。また品種が多く、大輪のオオバナアリアケカズラ (*A. cathartica* 'Hendersonii') や矮性で花が大きい'グランディフロラ' (*A. cathartica* 'Grandiflora')、八重咲きの'スタンシルズ・ダブル' (*A. cathartica* 'Stansill's Double') などがある。



英領バージン諸島 1991



タイ 1985



キューバ 1977



ネイビス 1993



コモロ連合 1971



クック諸島属領 ペンリン
1983



アンティグア・バーブーダ
1986



エルサルバドル 1965



セントビンセント 1984



シンガポール 1998

アラマンダ 学名: *Allamanda* 和名: アリアケカズラ
科名 / 属名: キョウチクトウ科 / アリアケカズラ属 (アラマンダ属)
園芸分類: 熱帯植物 形態: つる植物 原産地: 熱帯アメリカ
特性・用途: つる性、開花期が長い、常緑性

アラマンダは、「恋に落ちる前」という素敵な花言葉を持つ南国の花。沖縄での開花時期は、4月～10月頃。眩しいくらいの鮮やかな黄色が特徴的。南国と言えばハイビスカスやブーゲンビリアが代表的だが、これらの花は意外にも夏場の暑さと湿度に弱く、春や冬の方がよく咲く。それに比べ、アラマンダは沖縄の灼熱の太陽にも負けず、うだるような夏の暑さの中でも生き生きと咲いている。綺麗な花にはトゲがある…というように、アラマンダにはトゲはないが毒がある！

キョウチクトウ科に属する植物のほとんどの樹液(白い乳液)には、植物毒のアルカロイドを含んでおり、嘔吐や腹痛の原因になるので、素手で触らない様に十分に気をつけたい！



グレナダ 2003



モントセラト 1978



ネビス 1984



マリ 1971



セントルシア 1995



モントセラト 2002



アラマンダと
オオカバマダラ
アンギラ 1982



ソロモン諸島 1987



クック諸島 1967



英領バージン諸島
2000



普通切手
ガイアナ 1971

—熱帯地域原産の植物— 「熱帯植物」「観葉植物」

アンスリウム 学名: *Anthurium* 和名: オオベニウチワ (大紅団扇)

科名 / 属名: サトイモ科 / ベニウチワ属 (アンスリウム属)

園芸分類: 熱帯植物、観葉植物 形態: 多年草 原産地: 熱帯アメリカ～西インド諸島

特性・用途: 常緑性、開花期が長い、日陰でも育つ

アンスリウムの仲間は、熱帯アメリカから西インド諸島に約 600 種が分布する。美しく着色するのは仏炎苞 (ぶつえんほう) と呼ばれる部分で、花はひも状の部分 (肉穂花序: にくすいかじょ) に多数つき、小さくて目立たない。長期間楽しめる苞を觀賞する鉢花として栽培されるほか、観葉植物として楽しむ種類もある。花を楽しむ種類の主な原種は、アンドレアヌム (*Anthurium andraeanum*) で、その園芸品種は鉢物としてよく出回っているほか、切り花としても利用されている。また光沢のある葉も美しく、ハワイではバレンタインデーに贈る花として人気がある。



キューバ 1974



バルバドス 1986



キューバ 1993



ネビス 1993



グレナダ 2003



モントセラト 1991



第 19 回万国郵便大会記念
アンティグア・バーブーダ
1984



普通切手
コロンビア 1960



アンスリウムと
キジマドクチョウ
アンギラ 1982

プルメリア 学名: *Plumeria*

科名 / 属名: キョウチクトウ科 / インドソケイ属 (プルメリア属)

園芸分類: 熱帯植物 形態: 低木 高木 原産地: 熱帯アメリカ

特性・用途: 常緑性、落葉性、開花期が長い、香りがある

プルメリアは丈夫で周年開花性があるため、熱帯花木を代表する種類として世界中の熱帯地域で広く植えられている。花には芳香があり、ハワイではレイにも使われる。枝は多肉質で柔らかく折れやすいが、乾燥に強く、冬に断水すると0℃近くまでの寒さに耐える。プルメリア・オブツサ (*Plumeria obtusa*) とインドソケイ (*P. rubra*) がよく栽培されるほか、多くの園芸品種がある。以前はさし木用の枝 (穂木) だけが市販されていたが、最近は鉢植えのプルメリアが一般にもよく流通するようになってきた。なお、葉や枝を切ったときに出る白い乳液は有毒なので注意したい。



中央アフリカ 1986



ガーナ 1978



英領ツバル 1978



マダガスカル 1975



マリ 1981



モントセラト 2002



ニカラグア 1974



ピトケアン諸島 1994



普通切手
ガーナ 1967



モルディブ 1973



普通切手
オートボルタ 1963

—熱帯地域原産の植物— 「熱帯植物」

プルメリア 学名: *Plumeria*

科名 / 属名: キョウチクトウ科 / インドソケイ属 (プルメリア属)

園芸分類: 熱帯植物 形態: 低木 高木 原産地: 熱帯アメリカ

特性・用途: 常緑性、落葉性、開花期が長い、香りがある

プルメリア (*Plumeria*) はキョウチクトウ科インドソケイ属に属する植物の一般的な総称である。通常落葉樹で、花を付ける小灌木である。タヒチ、フィジー、サモア、ハワイ、ニュージーランドなどの太平洋の島々でレイに好んで使われるのは、プルメリアの花である。花は女性の髪にも飾られ、未婚者は頭の右に、既婚者は左に飾る。ラオスでは国花となっており、チャンパーと呼ばれ、2月頃から7月頃までの間に、白、ピンク、赤、黄の花が見られる。花は仏教寺院などで献花に用いられるほか、ラオスの正月やバーシーの儀式に用いられ、親や兄弟姉妹など肉親への敬愛と来客への幸運の象徴とされる。



サモア 1969



モントセラト 1976



バルバドス 1992



グレナダ領グレナ
ディーン諸島 1984



アンティグア 1978



ラオス 2001



ネビス 1993

プルメリア ルブラ

シンガポール
2007.06.06.

初日実郵便



164-0003 東京都
中野区東中野1丁目
11-26-105
中澤 猛 様
JAPAN



ストレリチア 学名：*Strelitzia* 和名：ゴクラクチョウカ（極楽鳥花）

科名 / 属名：ゴクラクチョウカ科 / ゴクラクチョウカ属（ストレリチア属）

園芸分類：熱帯植物、観葉植物 形態：多年草 原産地：南アフリカ

特性・用途：常緑性、開花期が長い

ストレリチア属は 5 種が知られているが、ストレリチア・レギナエ (*Strelitzia reginae*) が最もよく栽培される。幹は伸びず、高さは 1~2m になる。花はよく目立つオレンジ色の外花被（萼）と青色の内花被（花弁）からなり、熱帯の極楽鳥に似た美しい姿。開花期は環境や生育状況などによって変わり、冬から春、または春と秋など様々。温度を保つと大株はほぼ周年開花し、切り花用にも栽培される。観葉植物としても人気で、小鉢から大鉢まで流通する。寒さにも比較的強く、海沿いの霜が降りないような暖地では戸外でもよく冬越しする。中～大型の観葉植物としてストレリチア・ニコライ (*S. nicolai*) もよく流通する。近縁のタビビトノキにも似た株姿で、濃い緑色の大きな葉が扇形に広がる。幹が伸びて大きく育ち、高さ 10m ほどになる。
※科名：バショウ科で分類される場合もある。



カメルーン 1967



パラグアイ 1973



ガイアナ 1997



カーボベルデ 1993



普通切手
バハマ 2006



普通切手
バミューダ 1975



ジャマイカ 1986



ジンバブエ 1994



グレナダ領
グレナディーン諸島
1979



グアテマラ 1967

コンロンカ 学名: *Mussaenda* 和名: 崑崙花 (こんろんか) その他の名前: ムッサエンダ、ハンカチの花

科名 / 属名: アカネ科 / コンロンカ属

園芸分類: 熱帯植物 形態: 低木 原産地: 熱帯アフリカ、アジア、太平洋諸島

特性・用途: 常緑性、開花期が長い

「ハンカチの花」とも呼ばれるコンロンカは、夏ごろに中型の鉢物として出回る。白やピンク、赤などの鮮やかな花弁のように見えるのは萼片で、花は小さく目立たない。熱帯では一年中開花するので庭木としてよく育てられるが、栽培には高温が必要な種類が多く、沖縄などを除けば庭植えは困難。代表的な種類として、熱帯アフリカ原産のウスギコンロンカやヒゴロモコンロンカ、フィリピンとニューギニア原産のフィリピカなどがあり、「ロゼア」や「クイーン・シルキット」などの交配種もある。



ムッサエンダ・
エレガンス
ガンビア 1977



ヒゴロモコンロンカ
カメルーン 1970



ムッサエンダ・フィリピカ
フィリピン 1979



ヒゴロモコンロンカ
カメルーン 1975



ヒゴロモコンロンカ
シエラレオネ 1986



ムッサエンダ・フィリピカ
フィリピン 1979



ムッサエンダ・フィリピカ
フィリピン 1979



ムッサエンダ・フィリピカ
フィリピン 1979



ヒゴロモコンロンカ
ガンビア 1992



ムッサエンダ・フィリピカ
フィリピン 1979



ムッサエンダ・フィリピカ
フィリピン 1979



ヒゴロモコンロンカ
コートジボワール 1961

—熱帯地域原産の植物— 「熱帯植物」「観葉植物」「果樹」

コーヒーノキ 学名：*Coffea arabica* 和名：アラビアコーヒー

科名 / 属名：アカネ科 / コーヒーノキ属

園芸分類：熱帯植物、観葉植物、果樹 形態：低木 原産地：アラビカ種の実地はエチオピア南西部の高地

特性・用途：常緑性、日陰でも育つ、香りがある

コーヒーノキは熱帯アフリカやマダガスカル島、マスカリン諸島に約 100 種が生息している。最も一般的な種類はアラビカコーヒー（*Coffea arabica*）で、コーヒーの原料となるコーヒー豆を収穫するために、世界中の熱帯圏で栽培されている。産地により品種があり、ジャマイカの「ブルーマウンテン」やハワイの「ハワイ・コナ」などが有名。



ルワンダ 1975



コートジボワール
1970



ルワンダ 1975

コーヒー産業

ヴェンダ 1988



収 穫



計 量



天日干し



精 製

コーヒー農業

アンゴラ 2009



ロブスタ種の実(アンボイム)



赤ちゃんを背負う女性と
コーヒーの木



ロブスタ種の木(アンボイム)

—熱帯地域原産の植物— 「熱帯植物」「観葉植物」「果樹」

コーヒーノキ 学名: *Coffea arabica* 和名: アラビアコーヒー

科名 / 属名: アカネ科 / コーヒーノキ属

園芸分類: 観葉植物、熱帯植物、果樹 形態: 低木 原産地: アラビカ種の出産地はエチオピア南西部の高地

特性・用途: 常緑性、日陰でも育つ、香りがある

アラビカコーヒーはエチオピア原産で、高さ4~7mになる常緑低木。日陰でも育ち、葉は光沢のある濃緑色で、観葉植物としても栽培されている。葉は10cmほどの間隔で対生し、この葉のつけ根に香りのある白い花をつける。果実は、緑色から赤くなり、熟すと赤紫色になる。これがチェリービーンズと呼ばれ、果肉は食べると甘みがあっておいしい。その中に半球形のタネ、コーヒー豆が2粒入っている。

コーヒー栽培

エチオピア

1982



苗木



開花



結実



収穫



コーヒーを入れる人と
飲む人



実のなったコーヒーの木
ブラジル 1974



農作物 コーヒーノキ
スリナム 1961



キンシャサ見本市 コーヒーノキ
コンゴ 1969

サントンカ 学名: *Ixora* その他の名前: イクソラ、サندانカ

科名 / 属名: アカネ科 / サントンカ属 (イクソラ属)

園芸分類: 熱帯植物 形態: 低木 原産地: 中国南部～マレーシア半島

特性・用途: 常緑性、開花期が長い

サントンカ属には世界の熱帯域に 300-400 種があり、日本の在来種はない。花は主に 7-8 月に咲くが、ほぼ通年に見ることが出来る。赤い花を多数纏めてつけ、非常に美しい。花が美しいことから観賞用に栽培される。薬用とされたこともある。沖縄には古くに入り、沖縄と九州の一部では野生化している。



南ベトナム 1965



ラオス 2009



ネビス 1993



国際花と緑の博覧会
モルディブ 1990



寄付金付き切手
スリナム 1962



アンティグア 1978



ベトナム 1992



スリナム 2021



キューバ 1993

ソケイ(ジャスミンの仲間) 学名: *Jasminum* 和名: ソケイ

その他の名前: ジャスミナム・オフィシナーレ (オフィキナーレ)、コモン・ジャスミン/ジャスミナム・グランディフロルムなど

科名 / 属名: モクセイ科 / ソケイ属 (ジャスミナム属)

園芸分類: 熱帯植物 形態: つる性常緑低木 原産地: アジアからアフリカの熱帯あるいは亜熱帯地方

特性・用途: 香油

ジャスミンは、モクセイ科ソケイ属 (素馨属、学名: *Jasminum*) の植物の総称。ソケイ属の植物は世界で約 300 種が知られている。ほとんどの種は白色または黄色の花を咲かせる。いくつかの種では花は強い芳香を持ち、香水やジャスミン茶 (茉莉花茶) の原料として使用される。ジャスミン (ヤースミーン) という語はペルシャ語に由来し、中近東から欧米では女性の名前としても用いられる。ほとんどの種が観賞用として栽培されている。栽培の歴史は古く、古代エジプトですでに行われていたといわれている。ソケイとマツリカの 2 種については、香料原料として大規模な栽培が行われている。ソケイは 16 世紀中ごろからフランスのグラーヌで香料原料として大規模に栽培されるようになった。現在では、主な産地はエジプトやモロッコ、インドなどに移っている。



トルコ 1960



サンバックジャスミン
ラオス 2009



オレンジジャスミン
スリランカ 2006



タイで発見された新種
タイ 2013



ジャスミン
マヨット 2009



モルドバ 2019

ジャスミンの花

インド 2008. 香り付き

インドは「ジャスミン」の生産地

インドのタミル・ナードゥ州マドゥライやマイソールを中心に生産されており、ディオールやゲランなど世界で最も有名な香水のバイヤーを魅了している。ジャスミンは夜に咲くときにだけ強い香りを発するため、摘み取り者はまだ開花していないつぼみを丁寧に手作業で摘み取る。1kgのジャスミン油を生産するには 1,000kgの花が必要。

ジャスミン=幸運の象徴

ジャスミンは、何千年もの間、インドで神を讃えるために使用されており、特に南インドの生活に欠かせないもの。ヒンドゥー教の儀式や結婚式には、家族が家や美しい木々に新鮮な甘い香りのジャスミンを飾る。



トケイソウの仲間 学名: *Passiflora* 和名: トケイソウ (時計草)

科名 / 属名: トケイソウ科 / トケイソウ属(パッシフロラ属)

園芸分類: 熱帯植物 形態: 多年草 原産地: 熱帯アメリカ、アジア、オーストラリア

特性・用途: 常緑性、つる性、開花期が長い

トケイソウは個性的な花の形を時計の文字盤に見立てたことからトケイソウ (時計草) の名があり、特徴的な造形美のある美しい花が魅力の熱帯植物。アメリカの熱帯地域を中心に約 500 種ほどが分布し、花を楽しむ種類のほか、パッションフルーツのように果物として利用される種類もある。主につる性の植物で、一般にはあんどん仕立ての鉢物として流通しているが、庭に植えてトレリスに誘引したり、緑のカーテンとして楽しむことができる。また種類によって寒さに強いものから弱い種類までいろいろある。



パッシフロラ・カエルレアル
ルワンダ 1968



パッシフロラ・フォエティダ
英領バージン諸島 1981



パッシフロラ・フォエティダ
マカオ 1993



パッシフロラ・カエルレアル
アルゼンチン 1983



パッションフルーツ
北ベトナム 1964



パッシフロラ・カエルレアル
ガイアナ 2000



パッシフロラ・カエルレアル
アルゼンチン 1960



パッシフロラ・フォエティダ
(クサトケイソウ)
普通切手
ソロモン諸島 1987



パッシフロラ・フォエティダ
(クサトケイソウ)
ニカラグア 1982



パッシフロラ・カエルレアル
アンティグア 1978



パッシフロラ・モリッシマ
航空切手
コロンビア 1960

ハイビスカス 学名: *Hibiscus* その他の名前: ブッソウゲ (仏桑花)
 科名 / 属名: アオイ科 / フヨウ属(ヒビスクス、ハイビスカス属)
 園芸分類: 熱帯植物 形態: 低木 原産地: ハワイ諸島、モーリシャス島
 特性・用途: 常緑性、開花期が長い

ハイビスカスは、赤や黄色、白、ピンク、オレンジ色など原色の鮮やかな花色が魅力の熱帯花木。花の寿命はほとんど1日限りだが、大輪の品種や涼しい季節は2日もつことがある。一般に親しまれているのは鉢植えのハイビスカスで、販売時にはほとんどに矮化剤が散布されており、高さ30cm程度のものが多く見られる。しかし沖縄などで地植えされている株は3m程度まで大きく伸びる。マレーシア、スーダンの国花。



国際花と緑の博覧会
ウガンダ 1990



ギニアビサウ 1983



シエラレオネ 1986



サモア 1969



普通切手
バハマ 1971



アンティグア 1978



モルディブ 1973



マラウイ 1968



ハイビスカスとハチドリ
セントビンセント
1976



普通切手
加刷額面改正
グレナダ 1972



ルーマニア 1965

—熱帯地域原産の植物— 「熱帯植物」

ハイビスカス 学名: *Hibiscus* その他の名前: ブッソウゲ (仏桑花)

科名 / 属名: アオイ科 / フヨウ属(ヒビスクス、ハイビスカス属)

園芸分類: 熱帯植物 形態: 低木 原産地: ハワイ諸島、モーリシャス島

特性・用途: 常緑性、開花期が長い

ハイビスカスの原種は、ハワイ諸島、モーリシャス島に数種が分布するが、ハイビスカスの基本種とされ、沖縄でブッソウゲ、アカバナなどと呼ばれて親しまれているヒビスクス・ロサ・シネンシス (*Hibiscus rosa-sinensis*) は、原種なのか人工的につくられた交配種なのか定かではない。世界にはハイビスカスの園芸品種は1万種近くあるが、ハワイアン系の品種がほとんどを占める。ハワイ州の州花。摘んでもなかなかしおれないので「レイ (花の首飾り)」に使われる。



普通切手 クック諸島 1967



アンギラ 1969



ニジェール 1964



アンギラ 1970



カーボベルデ 1980



シリア・アラブ共和国 1983

ハイビスカス

マーシャル諸島

2020

4種連刷シート

ハイビスカス・
ローザ・シネンシス

Hibiscus is a popular ornamental plant, as the brightly-colored flowers tend to attract butterflies, bees and hummingbirds to the garden.



2008

ゴールデンキャンドル 学名: *Cassia alata* 和名: ハネセンナ 別名: キャンドルスティック、キャンドルブッシュ
 科名 / 属名: マメ科 / センナ属
 園芸分類: 熱帯植物 形態: 落葉低木 原産地: 熱帯アメリカ、西インド諸島
 特性・用途: 落葉性、薬用、街路樹

まっすぐのびた花序に咲く黄色い花が、ロウソクの炎のように見えることから別名をキャンドルスティックと呼ばれ、和名は果実に翼があることに由来している。南アメリカ原産で高さ 3m くらいになる落葉性の中木。葉は幅広の楕円形で、葉軸から左右に 6~12 対並ぶ。古くは 1300 年ほど前からインドネシア王室の貴婦人達の間で、美容やダイエット、かゆみや虫さされ等の皮膚疾患等で利用されてきた生薬である。



ネビス 2001



インドネシア 1966



モントセラト 1986



ガボン 1988



シンガポール 1998



ネビス 1988



スリナム 1974



コンゴ民主共和国
1971



ニカラグア 1984



カメルーン 1972

ブーゲンビレア 学名: *Bougainvillea* 和名: イカダカズラ (筏葛)
 科名 / 属名: オシロイバナ科 / イカダカズラ属(ブーゲンビレア属)
 園芸分類: 熱帯植物 形態: つる植物 原産地: 中南米
 特性・用途: つる性、開花期が長い、初心者でも育てやすい

ブーゲンビレアは丈夫で長期間開花することから、熱帯各地で親しまれているつる性の熱帯花木。美しく着色した部分は苞で、中心部に白色の小さな筒状の花をつける。寒さにも強く、霜が降りない地域では戸外でもよく冬越しする。ハイビスカスと並ぶトロピカルフラワーとして人気。とげがあることからハワイでは「花の悪魔」とも呼ばれている。



ジブチ 1978



フィリピン 1991



カーボベルデ 1980



アンギラ 1969



モルディブ 1973



コートジボワール
1961



アンティグア 1978



ギニアビサウ 1983



カメルーン 1966



普通切手 加刷
グレナダ 1972



チュニジア 1999

ブーゲンビレア 学名: *Bougainvillea* 和名: イカダカズラ (筏葛)

科名 / 属名: オシロイバナ科 / イカダカズラ属(ブーゲンビレア属)

園芸分類: 熱帯植物 形態: つる植物 原産地: 中南米

特性・用途: つる性、開花期が長い、初心者でも育てやすい

ブーゲンビレアは熱帯性の低木である。ブーゲンビリアとも呼ばれる。ブーゲンビリアという名前は、1768年にブラジルで木を見つけたフランス人の探検家ブーガンヴィルに由来する。花の色は赤から白まで変化に富み、ピンクやマゼンタ、紫、橙、黄のものもあるように見える。しかし、実際の花はいわゆる花の中央部にある小さな3つの白い部分である。色づいた花びらに見える部分は、花を取り巻く葉(包葉)であり、通常3枚もしくは6枚ある。



普通切手
マレーシア 2007



コンゴ民主共和国 1984



普通切手
ソロモン諸島 1987



エルサルバドル 1965



普通切手
ミクロネシア 2010



普通切手
グレナダ 1966



ナウル 1986



シエラレオネ 1993



オランダ領アンティル
1964

プロテア 学名: *Protea cynaroides*

科名 / 属名: ヤマモガシ科/ プロテア属

園芸分類: 熱帯植物 形態: 低木 原産地: 南アフリカ

特性・用途: 常緑 耐暑性は強い

プロテアは南アフリカに生息する植物で、4月～6月頃に見頃を迎える。品種が多い植物であり、日本では大輪の花を咲かせるキング・プロテアが非常に人気。キング・プロテアは、南アフリカの国花でも知られている。赤色やピンク色、そして黄色など花色が豊富で、花径は約30cm。プロテアは1本の枝に1輪の花が咲いているように見えるが、実は頭状花序で数多くの花が集まって一つの花を形成している。花びらのような部分は、「がく」の集まり。



プロテア・ガゲティ
ザンビア 1983



キングプロテア
ポーランド 1968



キングプロテア
ジンバブエ 1994



普通切手
プロテア・アルギレア
ベルギー領コンゴ
1952-53



プロテア・バルビゲラ
タンザニア 1999



普通切手
プロテア・レマイリイ
ベルギー領コンゴ 1952-53

アフリカ大陸の花 ハンガリー 1990



プロテア・コンパクタ



プロテア・レピドカルポ
デンドロンネリフォルイオ



プロテア・バリビゲラ
(クィーンプロテア)



キングプロテア

プロテア 学名 : *Protea cynaroides*

科名 / 属名 : ヤマモガシ科/ プロテア属

園芸分類 : 熱帯植物 形態 : 低木 原産地 : 南アフリカ

特性・用途 : 常緑 耐暑性は強い

南アフリカから熱帯アフリカにかけて 115 種ほどが分布している。樹高数十 cm から数 m の常緑の低木で、幹は直立し、葉は互生で、長い柄があり、革質で厚い。花は枝の先に単生するが、総苞片に包まれた、キク科の植物に見かけが似ている頭状花序で、花序そのものはそれほど華やかではないが、総苞片が鮮やかな色彩で、フリルがつくなど様々な形をしているため、派手な色彩の容器に、あざみやたんぽぽの花を入れたような、ユニークな形をしている。花持ちがよく、大きな生け花やフラワーアレンジメントなどに用いられる。

普通切手 南アフリカ 1977.



プロテア・レペンス



プロテア・
パンクタータ



プロテア・
ネリイフォリア



プロテア・
キナロイデス



プロテア・
ルーペリア



プロテア・
アリストタ



プロテア・
エクシミア



プロテア・
マグニフィカ



プロテア・
グランドピス



プロテア・
アンブルキシカリス



レウコスペルム・
コルディフォリウム



パラノムス・
反射神経

ヘルコニア 学名: *Heliconia*

科名 / 属名: オウムバナ科 / オウムバナ属

園芸分類: 熱帯植物 観葉植物 形態: 多年草 原産地: 熱帯アメリカ〜南太平洋諸島

特性・用途: 常緑性

「ヘルコニア」の由来は、ギリシャ神話で芸術の女神が住むといわれる「ヘリコン」山から。熱帯植物らしい雰囲気を持つ植物。花「ストレチア(極楽鳥)」に似ている。英名に、false bird of paradise (偽極楽鳥) というのがあったので、納得。特に、まだつぼみ(苞が開いていない)の時期の形はそっくり。赤い部分は、花ではなく、「苞(ホウ)で、その中からチュンチュンと突き出している小さい緑の突起が花。なんでも、あまりにも花が小さくて地味なので、虫や鳥に花だと気づかれない→蜜を吸われず、受粉できない→枯れてしまう ということ、葉っぱが色づき変形してこのように目立つ存在となって、花の代わりに虫や鳥を誘う役目をしているようだ。トリニダードトバゴの国花。



ヘルコニア・ヒューミス
グレナダ領
グレナディーン諸島 1979



ヘルコニア・ヒューミス
サントメプリンシペ 1993



ヘルコニア・
オーランディアカ
ベリーズ 1978



ヘルコニア・カリバ
英領バージン諸島 1991



ヘルコニア・ソロモニカ
普通切手
ソロモン諸島 1972



ヘルコニア・ロストラ
シンガポール 1998



ヘルコニア・プシッタコルム
寄付金付き切手 スリナム 1962



ヘルコニア・ロストラ
バルバドス 1986



ヘルコニア・ロストラ
ジャマイカ 1986



ヘルコニア・ファリノサ
ブラジル 1989



ヘルコニア・プシッタコルム
バルバドス 1986

ヘルコニア 学名: *Heliconia*

科名 / 属名: オウムバナ科 / オウムバナ属

園芸分類: 熱帯植物 観葉植物 形態: 多年草 原産地: 熱帯アメリカ～南太平洋諸島

特性・用途: 常緑性

熱帯アメリカ～南太平洋諸島に分布しているオウムバナ科の植物の総称。以前はバショウ科に分類されていたが、独立してオウムバナ科になった。茎の様に見えるものは偽茎（葉鞘が茎を幾重にも重なって外見上茎にみえるもの）で、地下茎によって増える。花は非常に豪華で、花苞（花を包んでいる部分）がオウムのくちばしのように見えることからオウムバナと呼ばれている。大きいものでは数mの花序を下垂させ、非常に迫力がある。また、鳥媒花で自然交雑種も多くあるそうだ。



ヘルコニア・ワグネリアナ
ジャマイカ 1986



ヘルコニア・ヒューミス
キューバ 1974



ヘルコニア・ワグネリアナ
ガイアナ 2000



ヘルコニア・ロストラタ
タンザニア 1992



ヘルコニア・プシッタコルム
ジャマイカ 1986



ヘルコニア・コリンシアナ
普通切手 ガイアナ 1971

各種のヘルコニア

コロンビア 2009

上段左から

ヘルコニア・ストリクタ
ヘルコニア・ロストラータ
ヘルコニア・ワグネリアナ

下段左から

ヘルコニア・オルソトリア
ヘルコニア・プシッタコルム
タブ1枚付き



COLOMBIA \$2.000



COLOMBIA \$2.000



COLOMBIA \$2.000



COLOMBIA \$2.000



COLOMBIA \$2.000



COLOMBIA \$2.000

HELICONIAS de Colombia

472

009025

バオバブ 学名：*Adansonia* その他の名前：逆さまの木

科名 / 属名：アオイ科 / バオバブ属

園芸分類：観葉植物、多肉植物 形態：高木、低木 原産地：アフリカ・マダガスカル・オーストラリア

特性・用途：落葉性

「バオバブ」の名は、16 世紀に北アフリカを旅したイタリア人植物学者が「バ・オバブ」と著書に記したのが始まり。元はアラビア語のブー・フブー（種がたくさんあるもの）から来ているという説がある。サバンナ地帯に多く分布する。幹は徳利のような形をしていて、高さは約 30 メートル、直径は約 10 メートルに及ぶ。最大のは南アフリカ共和国のリンボポにあり、高さ 47 メートル、直径 15 メートルである。中は空洞になることが多い。葉は幹の上部につき、乾季に落葉する。花は白色で大きい。果実はヘチマのように垂れ下がり、堅い。



ボツワナ 1996



ヴェンダ 1982



ボツワナ 1996



ソマリア 1958



ルワンダ 1968



ベチュアナランド 保護領
1961



ボツワナ 1996



ガンビア 1977



ボツワナ 1996

バオバブ 学名: *Adansonia* その他の名前: 逆さまの木

科名 / 属名: アオイ科 / バオバブ属

園芸分類: 観葉植物, 多肉植物 形態: 高木, 低木 原産地: アフリカ・マダガスカル・オーストラリア

特性・用途: 落葉性

バオバブ属 (*Adansonia*) は、アフリカ、マダガスカル、オーストラリアに 8 種が見られる。日本では、サン＝テグジュペリ著の小説『星の王子さま』でその名を知った人も多いことだろう。大木の幹には 10 トンもの水分を蓄えており、乾季になると葉を落として休眠する。休眠中は、幹内の水分で生き延びる。年輪がないので樹齢を知ることは難しいが、数千年に達するといわれる。放射年代測定は可能である。2011 年に枯死したジンバブエのバオバブは、樹齢 2500 年と推定された。アフリカ諸国では食用など様々な活用され、親しまれている。



マラウイ 1993



普通切手
バルバドス 2005



モーリタニア・イスラム
1967



ローデシア 1967



モーリタニア・イスラム
1967



シエラレオネ 1987



バオバブの巨木
コンゴ 1981



ガンビア 1992

アロエ 学名: *Aloe* その他の名前: 医者いらず、ロカイ

科名 / 属名: ススキノキ科 / アロエ属

園芸分類: 観葉植物, 多肉植物 形態: 多年草, 低木, つる植物, (種類による)

原産地: アフリカ、アラビア半島、ソコトラ島、マダガスカル、マスカレン諸島

特性・用途: 常緑性, 開花期が長い, 初心者でも育てやすい (種類による)

アロエは、薬用になる植物としてよく知られるキダチアロエや、食用とされるアロエ・ベラに代表される多肉植物。細長い葉がロゼット状につき、肉厚な葉の中にあるゼリー状の組織に水分を蓄えて育つ。多くの種類は性質が強健で、暑さや軽い霜程度の寒さには耐えるため、初めて園芸をする人にとっても育てやすい多肉植物。

約 500 の原種が知られ、自生地では高さ 20m の大木に育つ種類から、高さ 5cm 程度の小型種まであり、変化に富む。

アロエ トランスカイ 1986.05.01.



アロエ・フェロクス



木立アロエ



アロエ・マクラータ



アロエ・エクロニス

アロエ ボツワナ 1975.11.03.



アロエ・マルロティイ



アロエ・ルテセンス



アロエ・セプリナ
(孔雀錦)



アロエ・リトラリス



アロエ SP
ソマリコースト
1966



アロエベラ
(アロエ・バルバデンシス・ミラー)
国際文通週間 タイ 1984



アロエ・グラミニコラ
タンザニア 1986



アロエベラ
(アロエ・バルバデンシス・ミラー)
モントセラト 1998

オウゴチョウ 学名: *Caesalpinia pulcherrima*

科名 / 属名: マメ科 / ジャケツイバラ属

園芸分類: 庭木・花木 形態: 低木〜小高木、常緑 原産地: 熱帯アメリカ、西インド諸島

特性・用途: 低木 小高木、鉢植え、講演・庭園

中国名をそのまま日本語読みにした名前で、名前のように、黄色い蝶が群がっているように見える。熱帯アメリカ原産の樹高2〜3mの常緑低木で、沖縄では庭木などとして栽培されている。枝分かれは少なく、幹は不規則に曲がり、鋭い棘がある。葉は長さ12〜26cmの2回羽状複葉で、羽片は長さ6〜12cmの4〜8対で対生、小葉は長さ1〜2cm、幅4〜8mmの倒卵形で7〜11対。枝先に長い円錐花序を出し、赤橙色または鮮黄色の花を咲かせる。花は直径4〜5cm、花弁は5枚で長さ1〜2.5cmの円形、不揃いな形で、縁が波打つ。雄しべは10本で長さ5〜6cm、花糸は赤色で、太く基部に毛があり、花冠から長く突き出る。花柱は橙黄色で長さ6〜6.5cmで、花冠から長く突き出る。バルバドスの国花。沖縄の3大名花のひとつとされている。



ニジェール 1965



モルディブ 1990



ジブチ 1978



バルバドス 1970



シンガポール 1998



グレナダ 1976



ドミニカ国 1979



バハマ 1993



モルディブ 1973

カエンボク 学名: *Spathodea campanulata*

科名 / 属名: ノウゼンカズラ科 / カエンボク属 別名: アフリカンチューリップ

園芸分類: 庭木・花木 形態: 常緑高木 原産地: 西アフリカ

特性・用途: 土壌は特に選ばない、庭園、公園、街路、学校緑化

ジャカランダ、ホウオウボクとあわせ世界三大花木と称される。熱帯性常緑高木で、樹高は 12-25m ほどになる。葉は羽状複葉をなし、若葉のころは象牙色、成長すると光沢のある緑となる。一年を通じて赤みがかったオレンジ色の、つり鐘形の大きく派手な花を枝先に多数咲かせ続けるので、見た目がとても華やかな木である。国内では沖縄で見られます。生命力が強く、切り株からも萌芽し簡単に再生する。材は木質が柔らかいので、中南米ではゴシキドリなどの洞巢性鳥類が営巣に利用している。また耐火性に優れており、容易に燃えない。なお材にはニンニク臭がある。



タンザニア 1993



ケニア 2007



ガボン 1960



ガンビア 1977



ガーナ 1993



シエラレオネ 1963



ギニアビサウ 1983



インド 1981



キューバ 1967

カエンボク 学名: *Spathodea campanulata*

科名 / 属名: ノウゼンカズラ科 / カエンボク属 別名: アフリカンチューリップ

園芸分類: 庭木・花木 形態: 常緑高木 原産地: 西アフリカ

特性・用途: 土壌は特に選ばない、庭園、公園、街路、学校緑化

カエンボク（火焰木）は世界中の熱帯域に街路樹や庭園木、観賞目的の花木として広く移入されている。花の形が炎が燃えるように見えることから「火焰木」、チューリップに似た花で熱帯アフリカ原産であることから別名アフリカンチューリップツリーと呼ばれる。原産地では種子を食用、木材を製紙に、樹皮、花、葉を薬用に利用する。本種の花はつぼみのとき、内部に水を含んでおり、子供がこのつぼみを使って水鉄砲遊びをすることがある。



バルバドス 2005



ルワンダ 1966



ジャマイカ 1988



ウガンダ 1988



モントセラト 1976



英領バージン諸島 1991



ガーナ 1964



ドミニカ国 1975



花SS ガンビア 1989

エリスリナ 学名: *Erythrina* マメ科デイゴ属の植物の総称。デイゴ・アメリカデイゴなど。

エリスリナは赤色の意味。落葉高木で熱帯、亜熱帯に約 100 種分布する。

★**デイゴ** 学名: *Erythrina variegata* 別名: デイゴ エリスリナ

科名 / 属名: マメ科 / デイゴ属(エリスリーナ属)

園芸分類: 庭木・花木、熱帯植物 形態: 落葉高木 原産地: インド、マレー半島などの熱帯アジア、オーストラリア

特性・用途: 街路、公園、学校等に利用されるほか防風潮林

極めて丈夫で、生長がとて早い樹である。花は深紅色の総状花序。花期は沖縄では 3 月から 5 月頃である。ただし、デイゴの開花度は植栽されている場所や植物の個体によって異なり、同一個体の中でも位置や枝によってかなり差異がある。日本では沖縄県（あるいは奄美大島が生育の北限とされている。沖縄県の県花でもあり、1967 年（昭和 42 年）に県民の投票によって「沖縄県の花」として選定された。オオゴチョウ、サンダンカとともに沖縄県の三大名花に数えられる。

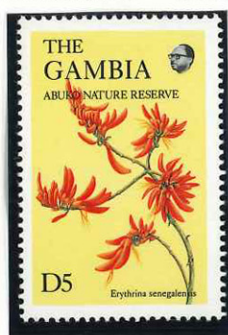
★**アメリカデイゴ** 学名: *Erythrina crista-galli* 和名: カイコウズ（海紅豆）

科名 / 属名: マメ科 / デイゴ属

園芸分類: 庭木・花木、熱帯植物 形態: 小高木 原産地: アルゼンチン、ウルグアイ、ブラジル、パラグアイ

特性・用途: 落葉性

アメリカデイゴは、南米原産の樹高 5~8m の落葉小高木で、南関東以南で庭植えができる。花の少ない夏に、遠くからでも目立つ真っ赤で蝶のような形の花を多数咲かせた姿は圧巻。アメリカデイゴは育てやすい花木だが、成長が早く、枝が風で折れやすいため、植え場所のスペースや風当たりなどを考慮する必要がある。アルゼンチンとウルグアイの国花。



エリスリナ・セネガレンシス
ガンビア 1987



エリスリナ・アビシニカ
ルワンダ 1966



エリスリナ・アビシニカ
ウガンダ 1990



エリスリナ・グラウカ
英領バージン諸島 1991



エリスリナ・インディカ
普通切手 モントセラト 1976



エリスリナ・ヴァリエガータ
ネビス 2001



エリスリナ・インディカ
カンボジア 1971



エリスリナ・ポエッピギアナ
キューバ 1967



エリスリナ・セネガレンシス
ガンビア 1977

ユソウボク 学名: *Guaiacum officinale*

科名 / 属名: ハマビシ科 / ユソウボク属

園芸分類: 庭木・花木 形態: 高木 原産地: 中央アメリカ、南アメリカ

特性・用途: 常緑性 街路樹

ユソウボクは中米から南米にかけて分布する。常緑樹の一種。漢字では「癒瘡木」と表記され、かつて梅毒の治療に用いられたことに由来するとされる。ユソウボクと他数種の近縁種の材は、ラテン語で「生命の樹」という意味のリグナムバイタ (lignum vitae) と呼ばれることもあり、これは世界で最も硬く重い木材といわれることもある。花の美しさのため、鑑賞用樹木として広く植栽される。カリブ海沿岸地域では特に多い。バハマの国樹。ジャマイカの国花である。街路樹としても人気が高い。



キプリスモルフォ
(モルフォチョウ科)とユソウボク
ニカラグア 1979



ドミニカ国 1979



チャイロドクチョウ
(ドクチョウ科)とユソウボク
ドミニカ国 1989



オランダ領アンチレン
1977



英領バージン諸島 1991



バハマ 2003



セントビンセント 1984



英領バージン諸島 1978



普通切手
モントセラト 1976

ホウオウボク 学名: *Delonix regia* 和名: ホウオウボク (鳳凰木)

科名 / 属名: マメ科 / ホウオウボク属

園芸分類: 花木 形態: 熱帯性落葉高木 原産地: マダガスカル島

特性・用途: 土壌が湿気に選び、庭園、公園、街路、学校緑化

熱帯三大花樹にもなっていて、沖縄県では街路樹や公園などに植えられていることが多いホウオウボク。漢字は「鳳凰木」と書き、中国神話の伝説の鳥の鳳凰から由来がきている。花が咲いているとき、鳳凰が飛翔しているように見えることからつけられた。花は6月から7月頃から開花し始め、10月頃までみることが出来る。花が咲いたあとはマメ科なので、サヤエンドウの巨大バージョンのような実をつける。



地方選挙切手(加刷)
バングラデシュ 1985



ギニアビサウ 1983



パラグアイ 2019



バルバドス 1992



普通切手
クック諸島 1967



普通切手
アンティグア 1978



英領インド洋地域
2000



グレナダ 1976



アンギラ 1970



ベトナム 1984

ホウオウボク 学名: *Delonix regia* 和名: ホウオウボク (鳳凰木)

科名 / 属名: マメ科 / ホウオウボク属

園芸分類: 花木 形態: 熱帯性落葉高木 原産地: マダガスカル島

特性・用途: 土壌は特に選ばない、庭園、公園、街路、学校緑化

初夏から秋、総状花序を伸ばし鮮朱赤色で蝶形の花を咲かせ続ける。樹は、笠形で形が整っており、大きな複葉が多数出る。樹下は夏でも涼しく、熱帯地方では格好の憩いの場とされる。緑色の葉はシダに似ており見た目も涼しげで、真っ赤で大きな花との対比が美しい。花は大きく開花し、雄しべと雌しべを突出させ、最盛期には樹冠が鮮緋色で一斉に染まる。花後には枝からぶら下るように大きな剣状の莢（サヤ、豆果）が成る。莢は時間の経過と共に黒く変色し、奇妙に振れて少し不気味。

熱帯地域では街路樹として植えられ、種子は食用や、レイ、ネックレスの素材とされ、花は黄色の染料、樹液はアラビアゴムの代用、木材は建築用となる有用な樹木。鳳凰木という花名は花の咲いている様子が、古代中国の伝説の霊鳥「ホウオウ（鳳凰）」が飛翔する姿に例えたことに拠る。そこから、鳳凰木の花言葉は「永遠」。



普通切手
モントセラト 1976



カメルーン 1966



アンギラ 1976



カーボベルデ 1980



普通切手
キリバス 1979



アンティグア・バーブーダ
1988



エルサルバドル
1965



ラオス 1967



タンザニア 1992



普通切手
バハマ 1971

ラフレシア 学名: *Rafflesia R.Br.* 和名:

科名 / 属名: ラフレシア科 / ラフレシア属

園芸分類: 寄生植物 原産地: 東南アジア島嶼部とマレー半島

特性・用途: 匂い強烈

ラフレシアはマレーシアやインドネシアの熱帯雨林に生息する世界最大の花。全部で 28 種類あり、そのうちマレーシアに生息しているのは 8 種類ある。ラフレシアの中でも一番大きな花を咲かせるのは「ラフレシア アルノルディイ」。直径 1.5m、重さ 12kg にもなる。ラフレシアは大きさも世界一だが、匂いの強烈さでも世界一の部類に入る。その匂いは動物の死骸が腐った匂い、トイレの悪臭のような匂いと言われている。それはラフレシアの受粉活動に必要なハエをおびき寄せるためだ。

ラフレシアは茎や葉、根を持っておらず、ハエを媒体として受粉しつばみとなり、ブドウ科の植物に糸のような細胞を食い込ませて栄養をとって育つ寄生植物。そのため、他の植物に比べうまく受粉する確率も低い。またつばみの期間は 9 ヶ月にも及びますが、開花するとわずか 5 日〜7 日で枯れてしまう。なかなか花を咲かせない上に開花しても数日の命。また生息する森林の減少によりラフレシアも減少している。このような理由から「幻の花」と言われている。



アルノルディイ・ラフレシア
インドネシア 1992



アルノルディイ・ラフレシア
インドネシア 2008



ハッセルティイ・ラフレシア
マレーシア 1979



アルノルディイ・ラフレシア
インドネシア 1993



ケリイメイジャー・ラフレシア
タイ 2006



ラフレシア
インドネシア 1989

珍しい花・

ラフレシアの生態

フィリピン

2007

マニナラ・ラフレシア



ゴールデン・シャワー 学名: *Cassia fistula* 和名: ナンバンサイカチ 別名: 、ゴールデンシャワー・ツリー
 科名 / 属名: マメ科 / カシア属
 園芸分類: 熱帯植物、花木 形態: 落葉小高木
 原産地: インド (アッサム州ヒマラヤ地域を含む) スリランカ、バングラデシュ、ミャンマー
 特性・用途: 土壌は特に選ばない 庭園 公園 街路樹 学校緑化

モンスーン地帯に生え、樹上は約 10-20 メートルになる。黄色い 5 弁の花を付ける。満開の時期には、まるで黄色いシャワーを浴びているようなところから、別名を持つ。芳香があり、とても綺麗な花実。実は薬用とされ、樹皮からはタンニンが採取される。熱帯アジアに多く見られる。日本には 1930 年代に沖縄に渡来。日本では沖縄、奄美群島、小笠原諸島以外では開花しない。タイの国花。リンネの『植物の種』(1753 年) で記載された植物の一つである。



バルバドス 1992



キューバ 1967



タイ 1974



ラオス 1967



ニカラグア 2004



シエラレオネ 1986



ガーナ 1993



普通切手
 ソロモン諸島 1987



スリランカ 2006

ゴールデン・シャワー 学名: *Cassia fistula* 和名: ナンバンサイカチ 別名: ゴールデンシャワー・ツリー
 科名 / 属名: マメ科 / カシア属
 園芸分類: 熱帯植物、花木、形態: 落葉小高木
 原産地: インド (アッサム州ヒマラヤ地域を含む) スリランカ、バングラデシュ、ミャンマー
 特性・用途: 土壌は特に選ばない 庭園 公園 街路樹 学校緑化

東南アジア原産のマメ科の木で、シャワーツリーと呼ばれる一群の花木の1つ。黄色の藤と言う形容がピッタリの花で、花房は50cm以上になり1房に100個以上の花が付く。大きな木では、数百房の花が垂れ下がり、絢爛豪華な初夏の風景を作ってくれる。基本色は黄色だが、黄色の濃淡に個体差があり、黄色と白が混じって咲く固体もある。そのグラデーションが素晴らしいく、見る者を魅了する豪華な咲きぶり。葉は偶数羽状複葉で初夏の風に涼しげにそよびてくれる。実は非常に結果しづらく、10000個花が咲いても1個も結果しないことがある。実は直径20~25mm、長さ40~60cmにもなり、ホウオウボクの実に匹敵する。実が熟すまでに長い期間が掛かり、翌年の花が咲く頃にようやく完熟する。



普通切手
 モントセラト 1976



ベトナム 1984



セントビンセント 1984



インド 1981



英領インド洋地域 1975



タンザニア 1992



ガーナ 1978



バングラデシュ 1978



ブルンジ 1986

アマリリス 学名 和名：アマリリス

科名 / 属名：ヒガンバナ科 / アマリリス属（ヒッペアストルム属）

園芸分類：球根 形態：多年草 原産地：南米

特性・用途：落葉性,初心者でも育てやすい

原種は中南米・西インド諸島に約 90 種があり、数百種類の園芸品種が作出され、現在もその数は増え続けている。学名のヒッペアストラムはギリシア語で騎士の意味の *hippeos*(ヒッペオス)と星、*astron*(アストロン)から、アマリリス *Amaryllis* は旧属名であり古代ギリシャやローマの詩に登場する羊飼いのアマリリスから取られている。学名上の園芸品種の総称はヒッペアストルム・ヒブリドゥム *Hippeastrum* × *hybridum*。

アマリリスは花径 10~20cm もある鮮やかな色の花を、すっと立ち上がる太い茎に咲かせる。1 株でもインパクトがあり、鉢植えや花壇、あるいは切り花として利用されている。球根が多く出回るのは 2 月から 3 月で、鉢植えで育てれば 1 か月半~2 か月後に花が咲く。



ヒッペアストルム・
ハイブリダム
アンギラ 1969



ヒッペアストルム CV・
モントセラト 1989



ヒッペアストルム CV・
ベナン 1981



アマリリス・
エスコバルリアエ
ボリビア 1971



アマリリス・エバンセア
ボリビア 1971



アマリリス・
シュードパルディナ
ボリビア 1971



ヒッペアストルム・
インドネシア 2001



ヒッペアストルム・
レティキュラータム
普通切手
マレーシア 2007



アマリリス・フェレイラエ
ペルー 1972



アマリリス・
ユンガセンシス
ボリビア 1971

イランイランノキ 学名: *Cananga odorata*

科名 / 属名: バンレイシ科 / イランイランノキ属

園芸分類: 香料植物 形態: 熱帯性常緑高木 原産地: 東南アジア

特性・用途: 半つる性 芳香花 香水の原料 鉢植え

イランイランノキは東南アジア原産であるが、世界中の熱帯域で栽培され、香料や材、観賞用に利用されている。特に花から抽出される精油はさまざまな香水に使用され、またアロマテラピーにも用いられている。低木から高木であり、葉は互生、葉腋から垂れ下がり咲く花は最初は緑色だが黄色くなり、強い匂いを放つ。



マレーシア 2000



ベトナム 1992



マヨット 1997



コモロ連合 2003



サモア 1969



マヨット 2005



インドネシア 1993



フィリピン 1991



インドネシア 1993



ドミニカ国 1979

グラジオラス（夏咲き） 学名：*Gladiolus × hybridus* 和名：トウショウブ（唐菖蒲）

その他の名前：オランダアヤメ、オランダショウブ

科名 / 属名：アヤメ科 / トウショウブ属(グラジオラス属)

園芸分類：球根 形態：多年草 原産地：南アフリカの原種をもとに育成

特性・用途：落葉性、初心者でも育てやすい

グラジオラスは夏花壇を彩るポピュラーな花の一つ。横向きに整然と並んで次々に咲き上がる様子は壮大で、花壇の中でも特に目を引く。すらりと伸びた花穂と剣のような形の硬い葉が特徴で、学名のグラジオラス (*Gladiolus*) はラテン語で「小さな剣」という意味があり、葉や蕾の形からつけられている。南アフリカを中心として欧州、西アジア、マダガスカルに180種ほどの原種が自生し、このうち熱帯アフリカや南アフリカの10種類ぐらいの種がもとになって多数の園芸品種が育成されている。花色のバラエティーが非常に豊富だが、大きく分けると大輪のグランディフロラ系と小輪のピクシオーラ系とがあり、春植え球根として扱われている。



レソト 1978



パナマ 1966



リビア 1976



ベトナム 1994



ベトナム 1994



ベトナム 1994



ベトナム 1994



マラウイ 1983



イタリア 1983



キューバ 1974



ローデシア 1967

グロリオサ 学名: *Gloriosa* 和名: キツネユリ (狐百合) その他の名前: ユリグルマ (百合車)

科名 / 属名: イヌサフラン科 / キツネユリ属 (グロリオサ属)

園芸分類: 球根、草花 形態: 多年草 原産地: 熱帯アフリカ、熱帯アジア

特性・用途: つる性、落葉性

アフリカ、熱帯アジアに5種が分布するつる性植物。春に球根を植えて夏に花を楽しむ、春植え球根として扱う。花びらは6枚、細めで上に反り返る。色は赤や黄色でなんとなく揺らめく炎のように見える。赤と黄色のツートンカラーになるものはコントラストが非常に良く、エキゾチックな雰囲気を持つ。秋には茎葉が枯れて、冬は球根の状態です。グロリオサの名前はギリシャ語のグロリオサス(栄光ある・名譽ある)に由来する。和名のキツネユリは花姿をキツネに見立てたもの。葉の先端がつる状になり、他のものに絡みながら伸びていく。球根はヤマノイモやナガイモの担根体に似ているが、コルヒチンやグロリオシンという毒(アルカロイド)が含まれているため、食べると危険である。グロリオサの一種、*G. rothschildiana* はジンバブエの国花であり、かつてローデシアの国花でもあった。



マリ 1982



シエラレオネ 1986



ガボン 1964



フランス領西アフリカ
1958



トーゴ 1975



シエラレオネ 1963



普通切手
ローデシア 1976



鳥 - アビシニアコウライ
ウグイス(オス)とグロリオサ
エチオピア 1989



普通切手
ガンビア 1977



スワジランド 1971

ニチニチソウ 学名: *Catharanthus roseus* 和名: ニチニチソウ (日々草) 別名: ビンカ

科名 / 属名: キョウチクトウ科 / ニチニチソウ属

園芸分類: 草花 形態: 一年草 原産地: マダガスカルを中心とする熱帯～亜熱帯

特性・用途: 開花期が長い, 初心者でも育てやすい

ニチニチソウ属の植物は 8 種が知られており、それらのうちの 7 種が、アフリカのマダガスカルに分布している。現在の品種群は、マダガスカル原産のロゼウス (*Catharanthus roseus*) を中心に改良したもの。ひとつひとつの花は 3～5 日の寿命だが、新しい花を次々と咲かせ、毎日花が絶えないことから「日々草」と呼ばれている。ニチニチソウは、ビンカと呼ばれることもあるが、じつはビンカは別属のツルニチニチソウ属の学名。ニチニチソウには矮性、高性、這い性の 3 タイプがあるので、用途に合わせて品種を選んでみよう。



ニジェール 1965



普通切手
ソロモン諸島 1987



マリ 1981



ニューヨーク本部用
国際連合 1990



キューバ 1977



タンザニア 1992



オランダ領アンティル 1964



カーボベルデ 1980



セネガル 1994



付加金付き切手
スリナム 1962

熱帯スイレン 学名: *Nymphaea* 和名: スイレン (睡蓮) その他の名前: 熱帯性スイレン

科名 / 属名: スイレン科 / スイレン属

園芸分類: 水生植物 形態: 多年草 原産地: 主に熱帯アフリカ。南米、オーストラリア、熱帯アジアなどの熱帯地域にも分布
特性・用途: 開花期が長い、香りがある

熱帯スイレンは花茎を水面より上に伸ばして大きな花を咲かせる。一年中暖かい気候を好む。耐寒性がないため、水温が 15℃ 以下になると生育が衰え、枯れてしまう。花色は温帯スイレンにはない青や紫色があり、多彩で、エキゾチックな雰囲気がある。花は朝開いて夕方まで咲き続ける。また、昼咲きのほか夜咲き性の種類もある。開花期間も長く、7 月から 10 月まで続く。



普通切手
ガンビア 1977



タンザニア 1986



ルーマニア 1965



エルサルバドル 1965



ニカラグア 1988



モーリタニア 1965



普通切手
ベルギー領コンゴ 1952



オートボルタ 1982



マリ 1982



普通切手
ベンダ 1979

熱帯スイレン 学名: *Nymphaea* 和名: スイレン (睡蓮) その他の名前: 熱帯性スイレン

科名 / 属名: スイレン科 / スイレン属

園芸分類: 水生植物 形態: 多年草 原産地: 主に熱帯アフリカ。南米、オーストラリア、熱帯アジアなどの熱帯地域にも分布
特性・用途: 開花期が長い、香りがある

水に浮かぶ涼しげな姿が美しい水生植物。名前は花の開く時間帯が由来だそう、朝に開花した後、夕方には閉じてしまうのがまるで眠ってしまうように見えることから、睡蓮「睡(眠る)蓮」と言われている。学名の「*Nymphaea*」はギリシャ語で「水の妖精」を意味する「Nymph (ニンフ)」に由来するとされている。香りある種類や夜咲き種等、花色のバリエーションも豊富。



普通切手
オートボルタ 1963



マリ 1982



タンザニア 1993



ベナン 1979



マレーシア 1990



スイス 1964



セネガル 1996

切手収集促進

12 種連刷シート

タイ 2000

タレノワの湖に咲く
一面のスイレン



ハス 学名: *Nelumbo nucifera* 和名: ハス(蓮) 別名: ハチス

科名 / 属名: ハス科 / ハス属

園芸分類: 水生植物、草花 形態: 多年草 原産地: 熱帯～温帯アジア、オーストラリア北部(ヌシフェラ種)、北アメリカ(ルデア種)

特性・用途: 落葉性

ハスは、水底の土中に塊茎をつくり、そこから葉と花茎を水面に伸ばす水生植物。塊茎はレンコンとして食用にされるが、主に食用にされる系統と、花を楽しむ系統があり、花を楽しむ系統の塊茎は、あまり太らず食用には向かない。

ハス属の植物にはヌシフェラ種(*Nelumbo nucifera*)とルデア種(*N. lutea*)の2種があり、ピンクの花を咲かせる前者をハス、後者は黄色い花を咲かせるのでキバナハスと呼んでいる。両種の交雑により、多くの園芸品種が誕生しており、それらもハスと呼ばれている。



南ベトナム 1965



カンボジア 1970



オーストラリア 2002



スリランカ 2006



インド 1977



タンザニア 1992

各種のハス カンボジア 2005



紫



白



薄青



黄



ピンク

ハス 学名: *Nelumbo nucifera* 和名: ハス(蓮) 別名: ハチス

科名 / 属名: ハス科 / ハス属

園芸分類: 水生植物、草花 形態: 多年草 原産地: 熱帯～温帯アジア、オーストラリア北部(ヌシフェラ種)、北アメリカ(ルデア種)

特性・用途: 落葉性

ハスは多年草で、春に地中の地下茎から芽を出して茎を伸ばし、水面に葉を出す。草高は約1メートル、茎に通気のための穴が通っている。はじめは浮葉になるが、のちに長い葉柄をもって水面よりも高く出る葉もある。葉は直径40-50cmの円形で、葉柄が中央につき、撥水性があって水玉ができる(ロータス効果)。沼や池の沿岸部に沿って多く自生する。花期は夏(7-8月)で、葉柄よりも長い花茎を水上に出して、白またはピンク色の1輪の花を咲かせる。早朝に咲き昼には閉じる。花後は、花床の穴の中で、実を結ぶ。ベトナムはハスを国花としている。



普通切手 マレーシア 2007



ベトナム 2008



普通切手 タイ 2011

新年

タイ 2008

現地のハスの花

ハス/インディ
パックス 2011

シエラレオネ

2011



スィレン スワンナ



スィレン タン・クワン



スィレン タンボン



スィレン
マンガラ ウボル



ハマオモト 学名: *Crinum asiaticum* 和名: ハマユウ

科名 / 属名: ヒガンバナ科 / ハマオモト属

園芸分類: 球根 形態: 多年草 原産地: 本州(関東以南)~琉球、中国、マレーシア、インド

特性・用途: 芳香

海岸の砂地に生える大型の常緑多年草で、葉がオモトに似ていることからハマオモトという。別名は「ハマユウ」で、通常この名前もよく使われる。葉は光沢のある細長い形をしており、長さ 50~80 cm。6~9 月に葉の間から長さ 50~80 cmの太い花茎を伸ばし、花茎の頂端に白い花を十数個咲かせる。花には芳香があり、特に夜間強くなる。種子は海綿質の外種皮に包まれ、海水によく浮遊する。多くの変種があり、花が紅紫色のもの、葉が赤褐色のものや斑入りのものなどがある。全草、特に根（鱗茎）にヒガンバナ科に共通するリコリン（アルカロイド）と呼ばれる毒が含まれる。



ハナビシ
アンギラ 1988



カンパニユラタム
シスカイ 1988



クリナム・マコワニ
アンギラ 1988



クリナム・オルナツム
シエラレオネ 1963



ハマナス
カイマン諸島 1980



クリナム デラゴエンセ
モザンビーク 1994



クリナム・オルナタム
シエラレオネ 1986



クリナム・アングスタム
セイシェル離島 1986



クリナム・モーレリ
アイルランド 1995

ハマオモト 学名: *Crinum asiaticum* 和名: ハマユウ

科名 / 属名: ヒガンバナ科 / ハマオモト属

園芸分類: 球根 形態: 多年草 原産地: 本州(関東以南)~琉球、中国、マレーシア、インド

特性・用途: 芳香

ハマオモト属は、約 180 種を含むヒガンバナ科の属である。園芸方面では、学名仮名読みのクリナムで通用している。暖地の海岸砂地に生える常緑多年生植物である。球根から育ち、葉のない茎に大きく美しい花を付ける。花は白色で夜間に開花、芳香がある。和名はオモト (万年青) に似ていることに由来する。別名「ハマユウ (浜木綿)」。葉は根元から出た長い帯状で、薄緑色から緑色である。南アフリカ等、世界中の熱帯または亜熱帯地域の川や湖で見られる。



クリナム・デラドエンサ
モザンビーク 1978



クリナム・ムーレイ
セネガル 1981



クリナム・ギガンテウム
サントメ・プリンシペ 1979



クリナム・ムーレイ
マリ 1981



クリナム・スカブルム
普通切手
ソマリア 1955



クリナム・モーレル
ウォリア・フツナ諸島 1982

ポストカード

普通切手付きはがき

ベンダ 1979.09.13.

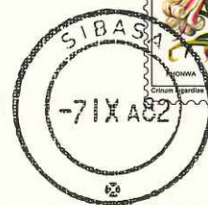
クリナム・ルガルディアエ



POSKARATA
POSTCARD
POSKAART



Ndi ha diresi fhedzi
For address only
Slegs vir adres



ポインセチア 学名: *Euphorbia pulcherrima* 和名: ショウジョウボク (猩々木)、ポインセチア
 科名 / 属名: トウダイグサ科 / トウダイグサ 属 (ユーフォルビア属)
 園芸分類: 草花 形態: 低木 原産地: メキシコの山地
 特性・用途: 開花期が長い

ポインセチアはメキシコの山地原産のユーフォルビア・プルケリマ (*Euphorbia pulcherrima*) を改良してつくられた。野生種は軽い霜に当たっても枯れないぐらいの耐寒性があるが、園芸品種は寒さに弱いので、最低温度 10℃以上で管理しよう。1 年で枯らしてしまうことが多く、草花のように扱われているが本来は低木。沖縄などでは庭で数 m ほどに大きく育っているのを見かけることがある。赤や白などに色づいた部分は花と間違えられがちだが、これは苞 (ほう) と呼ばれ、本当の花のまわりにつくられる。花は苞の中心にある黄色い部分。ポインセチアは日が短くなると花芽ができる短日植物で、自然条件では 10 月下旬から花芽分化が始まる。



バハマ 1985



ニカラグア 1984



グレナダ領
グレナディーン諸島
1979



ニカラグア 1979



セントキッツ 1993



マリ 1971



ネビス 2001



モントセラト 1986



モントセラト 1986



タブに説明 マーシャル諸島 2001



普通切手
クック諸島 1967

ポインセチア 学名: *Euphorbia pulcherrima* 和名: ショウジョウボク (猩々木)、ポインセチア
 科名 / 属名: トウダイグサ科 / トウダイグサ 属 (ユーフォルビア属)
 園芸分類: 草花 形態: 低木 原産地: メキシコの山地
 特性・用途: 開花期が長い

常緑性低木。学術上の標準和名はショウジョウボクであり、ポインセチアは通名である。日本では 11 月から 12 月ごろに茎の上にある葉が赤や桃色や乳白色に美しく色付く。クリスマスが近くなると花屋に鉢物が出回ることから「クリスマスフラワー」とも呼ばれる。そのため日本では (大雪から小寒の前日まで) の季語とされている。葉は薄く、楕円形。花はいわゆる杯状花序である。一般に花冠 (花びら) と見られるものはその下に着く苞 (葉) であり、これが赤く染まるのが鑑賞の対象となる。その赤さはキリストの血の色に例えられる。原産はメキシコ。



アンギラ 1979



アンギラ 1979



アンギラ 1979



ネビス 1988



バハマ 1985



ジャマイカ 1988



メキシコ 1977



トリニダード トバコ
1977



トリニダード トバコ
1977



普通切手
ドミニカ国 1969